

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホーム つばさ(ユニット①②)		
所在地	焼津市田尻北790番地		
自己評価作成日	平成24年1月21日	評価結果市町村受理日	平成24年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295100164&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事作りは、できる限り入居者に参加してもらい、皆で食事の準備から片付けまでを行うようにしている。毎月おやつ作り等のレクリエーションを企画し、楽しみある生活を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月の行事や地域との交流、外出によって利用者の感性を刺激して喜怒哀楽の豊かな利用者主体の生活が実現している。また利用者同士も9名の人間関係が成り立っていて、互いが相手のペースを大切に認め合い、時には手を差し伸べたりと温かい関係がある。職員はその関係をより円滑になるような配慮を心がけている。昨年目標であった職員のさらなる介護技術向上については4グループに分かれ、職員が最も学びたい事、知りたいことをテーマに取り上げ、地域資源の活用や薬の作用、副作用等について発表している。これまでに2回開催しているが職員の向上心は格段に強まり次のテーマへと拡がりを見せている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行っている。	理念は職員が壁を感じた時に初心にかえるものとして位置づけしている。また職員が自ら理念を眺め考えにふけていることもあり、軸として捉えていることも伝わってくる。出勤時にはまず利用者のもとへ行きあいさつをし、退勤時にも声をかけていて利用者と職員の良い関係の様子も覗える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練などに参加している。地域で行われるイベントには極力参加している。また、地域のスーパーを利用している。	どんど焼や祭りに参加したり、文化センターで開催される華道展、文化祭や高校の演奏会などに出向いたり、園芸ボランティアが毎月のように来てくれたり、高校生と蒸しまんじゅう作りを楽しんだりと数々の交流が実現し昨年さらさらには拡がりを見せている。盆踊りでは子ども会との温かい交流がある。	地域向けのグループホームたよりの発行が実現できるよう取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はまだ取り組んでいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の様子をまとめたスライドショーやおやつ作りを実際にみてもらい、助言をいただいている。	1日の流れをスライドで見てもらい、具体的な様子を伝えている。運営推進会議では地域行事へ誘ってもらったり散歩中に中学生の歌声を聞いて利用者の表情が明るくなったことが地域から中学校へ伝わり交流へつながっている。次回から民生委員が2名参加してくれることになり関係がさらに深まることが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて報告、また適宜連絡を取っている。	運営推進会議の議事録を市と包括へ出向いて渡している。介護相談員も運営推進会議に参加してくれていて、事業所への理解を示してくれる。市の職員とは相談しやすい関係にあり、円滑な連携を図れている。またグループホーム連絡会に参加して身体拘束や利用者の対応等について意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止の勉強会を開催している。	毎月の勉強会でケアや対応、声かけについての振り返りをしたり、マニュアルを見ながら基本的な理解ができているかひとつずつ確認している。特にスピーチロックに力を入れて取り組んでいて、家族が利用者に接する姿から職員も同じように関われるように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い、統一したケアを心掛けている。毎月高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し、学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にてアンケートを実施。 また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。	年2回家族会の際に職員の対応やサービスの満足度などについてアンケートを実施したりスライドを見てもらっている。様子を伝える際はどのように元気であるか具体的な内容を添えている。居室がシンプルだという意見を受けて作品や家族の写真を掲示できるように設置する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議開催前にはアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。	介護技術の向上に向けた取り組みで他のグループと情報交換や話し合いが充実していて、勉強を通して意識が自主的な方向に変わりつつある。職員と管理者の間に信頼関係があるので職員から相談してくることもある。また毎月のアンケートが職員意見の把握に役立っていて大きなウエイトを占めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、隣接施設の内部研修に参加している。また、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のGH連絡会に参加している。 (1回/3ヶ月)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成 センター方式 B-3シートの記入		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用 外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。	利用者の要望はケアプランの中に盛り込んで支援に取り組んでいる。遠方の家族が訪ねてくれたり、毎月のように家族と出かけたり年末年始に外泊したり家に立ち寄る利用者もいる。また事業所に家族が集まり食事会を実現した事例もある。毎年暑中見舞いと年賀状を出している。	家族と利用者の関係がさらに円滑になるように家族会での外出を継続することを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入	利用者のこだわりを大切にしている。洗濯物の日当たり具合を気にして向きを変えたりお酒が好きな利用者に行事などの際にノンアルコールビールを提供したり「天気がいいね」の一言から布団を干したり、利用者の思いと行動が連動するように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成 センター方式 B-3シートの記入		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行い、アセスメント要約表を記入し介護計画を作成する。カンファレンスには、代表者、介護支援専門員、計画作成担当者、担当介護職員、看護職員、家族が出席する。	家族もカンファレンスに参加できるよう時間を調整して行っている。モニタリングは担当職員が取り組み、毎月の見直し(介護支援記録)はケアマネージャーと計画作成担当者が取り組んでいる。介護記録の中で項目についての記載状況を見ながらケアプランが利用者には添ったものか判断している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する特養との交流		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。 スーパーへの買い物に出かけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。 医師の往診あり。	事業所の協力医にほとんどが変更している。協力医は月に2回の往診があり、いつでも連絡が取れる関係にあるので家族の安心も大きく、看護師が常勤しているので円滑な連携が取れている。薬についてはセットと再確認、与薬時確認ときめ細やかなチェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 往診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、適宜家族に確認。 家族と方針を共有している。	看取りについては簡単に受け止めることはできないので考えを重ね検討中としている。半年に1回急変時対応確認書で家族の気持ちを聴いている。毎月リスクマネジメントの勉強会の中で急変時の対応について確認し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習受講。(心肺蘇生法、AED) 全体会にて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。 定期的な防災訓練の実施。年に2回は隣接の特養と合同で、地域住民にも協力を依頼し、総合防災訓練を行っている。	年2回の防災訓練のほか、併設する特養と合同で開催する防火管理委員会に毎月参加して改善に取り組んでいる。事業所独自の取り組みとして設備点検を含む防災訓練を毎月行い、結果報告書を上げている。また「防火対象物自主点検チェック票」で毎月チェックしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。 スピーチロックの勉強会の実施。	個人情報取扱については家族の許可を待てからと決めているので、お便りに載せる写真についても同様に対応している。法人の研修に参加して接遇について学び、毎月目標を掲げて取り組んでいる。今後は職員同士が気づき、注意しあえる風土をさらに高めていきたいと考えている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 夜間帯にも入浴できるよう実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、ぬり絵、カラオケ、体操、習字など好きなものへ参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー、パーマの実施。 入浴時には、ご本人に洋服を選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の検品、切る→調理→配膳→片付けと、それぞれの入居者が得意とする部分に参加してもらっている。	朝、昼、夕食のメニューをホワイトボードに書き出して食事が楽しみに待てるように工夫している。食事の率直な感想を伝えてくれる利用者もいる。ちらし寿司など行事食に取り組んだり誕生日には皆でケーキ作りを楽しみ、おやつもおよそ週に1回のペースで手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、介護職員、看護職員が情報を共有し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレにて排泄してもらえよう、職員2人にて介助を行っている。	「日中はトイレでの排泄をする」ことで「紙パンツの使用はなるべく避ける」ことでおむつからリハパン、リハパンから布パンツへと徐々に改善の傾向が見られる。訴えることが困難でも職員が連れていくことで排泄があり、布パンツで過ごすことで皮膚疾患も改善している。水分補給は1日1ℓを目標に摂取している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに牛乳や野菜を取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせて、夜間帯であっても入浴できるよう体制を整えている。	現在夜間に入りたいという希望はないが、昼夜問わず入りたい時に入浴してもらっている。湯は状況に合わせて2人入ったら替えている。基本は1対1の介助で安全に配慮しながら取り組み、季節のしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。 また、夜間ぐっすり眠れるよう日中の活動量の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング実施。 また、会議において個々の薬についての勉強会の実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	社交ダンス、ケーキ作りなど、個々に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間の連携を密にし、利用者の希望に応じて外出してもらっている。市の広報紙から情報を得て、文化センターで行われる作品展等に出かけている。	今年は初めて家族会で吉田公園や静岡空港に出かけることができ、次回も桜の花見を心待ちにしている。地元の桜まつりに参加したり稲荷神社の祭りで子どもの舞を見たりと、人と人の触れ合いが豊かな場へ行くことが頻繁にある。気候のいい時は1日1回外に出ることが慣例となっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の下、お金を持っている方もいる。食費より出費し、好きなおやつを買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。年賀状の発送		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	非常口、トイレにカーテンを取り付けている。	大窓があり室内が明るく、また和風の間接照明が温かみを感じる。洗面台や廊下など至る箇所まで掃除が行き届き清潔感がある。キッチンの前にも和室スペースがあり、談話を楽しむことができる。夜間非常口に映る自分の姿を見て不穩になってしまう利用者もいるのでカーテンをつけて配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体がフローリングのため、居間に畳コーナーを設置し、入居者が足を伸ばして寛げる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒の持込や、家族の写真を飾ったりしている。	孫からの手紙や家族からはがき、折り紙で作ったプレゼント、習字の作品などを飾っている。またカレンダーや花、テレビ、時計、チェストを持ちこみ、生活しやすい環境作りをしている。シーツや布団は週に1回交換したり干して心地よく眠れるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下等は車椅子やシルバーカー等を使用しても安全に使用できるような適切な広さを確保し、自立を促している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行っている。	理念は職員が壁にあたった時に初めにかえるものとして位置づけしている。また職員が自ら理念を眺め考えにふけていることもあり、軸として捉えていることも伝わってくる。出勤時にはまず利用者のもとへ行きあいさつをし、退勤時にも声をかけていて利用者と職員の良好な関係の様子も覗える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練などに参加している。地域で行われるイベントには極力参加している。また、地域のスーパーを利用している。	どんど焼や祭りに参加したり、文化センターで開催される華道展、文化祭や高校の演奏会などに出向いたり、園芸ボランティアが毎月のように来てくれたり、高校生と蒸しまんじゅう作りを楽しんだりと数々の交流が実現し昨年さらに拡がりを見ている。盆踊りでは子供会との温かい交流がある。	地域向けのグループホームたよりの発行が実現できるよう取り組むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はまだ取り組んでいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の様子をまとめたスライドショーやおやつ作りを実際にみてもらい、助言をいただいている。	1日の流れをスライドで見てもらい、具体的な様子を伝えている。運営推進会議では地域行事へ誘ってもらったり散歩中に中学生の歌声を聞いて利用者の表情が明るくなったことが地域から中学校へ伝わり交流へつながっている。次回から民生委員が2名参加してくれることになり関係がさらに深まることが期待される。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて報告、また適宜連絡を取っている。	運営推進会議の議事録を市と包括へ出向いて渡している。介護相談員も運営推進会議に参加してくれていて、事業所への理解を示してくれる。市の職員とは相談しやすい関係にあり、円滑な連携を図れている。またグループホーム連絡会に参加して身体拘束や利用者の対応等について意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止の勉強会を開催している。	毎月の勉強会でケアや対応、声かけについての振り返りをしたり、マニュアルを見ながら基本的な理解ができていくかひとつずつ確認している。特にスピーチロックに力を入れて取り組んでいて、家族が利用者へ接する姿から職員も同じように関わられるように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い、統一したケアを心掛けている。毎月高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し、学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にてアンケートを実施。 また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。	年2回家族会の際に職員の対応やサービスの満足度などについてアンケートを実施したりスライドを見てもらっている。様子を伝える際はどのように元気であるか具体的な内容を添えている。居室がシンプルだという意見を受けて作品や家族の写真を掲示できるようルールを設置する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議開催前にはアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。	介護技術の向上に向けた取り組みで他のグループと情報交換や話し合いが充実していて、勉強を通して意識が自主的な方向に変わりつつある。職員と管理者の間に信頼関係があるので職員から相談してくることもある。また毎月のアンケートが職員意見の把握に役立っていて大きなウエイトを占めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、隣接施設の内部研修に参加している。 また、外部研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のGH連絡会に参加している。 (1回/3ヶ月)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成 センター方式 B-3シートの記入		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用 外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。	利用者の要望はケアプランの中に盛り込んで支援に取り組んでいる。遠方の家族が訪ねてくれたり、毎月のように家族と出かけたり年末年始に外泊したり家に立ち寄る利用者もいる。また事業所に家族が集まり会食会を実現した事例もある。毎年暑中見舞いと年賀状を出している。	家族と利用者の関係がさらに円滑になるように家族会での外出を継続することを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切にし、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入	利用者のこだわりを大切にしている。洗濯物の日当たり具合を気にして向きを変えたりお酒が好きな利用者に行事などの際にノンアルコールビールを提供したり「天気がいいね」の一言から布団を干したり、利用者の思いと行動が連動するよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成 センター方式 B-3シートの記入		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行い、アセスメント要約表を記入し介護計画を作成する。カンファレンスには、代表者、介護支援専門員、計画作成担当者、担当介護職員、看護職員、家族が出席する。	家族もカンファレンスに参加できるよう時間を調整して行っている。モニタリングは担当職員が取り組み、毎月の見直し(介護支援記録)はケアマネと計画作成担当者が取り組んでいる。介護記録の中で項目についての記載状況を見ながらケアプランが利用者に添ったものか判断している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する特養との交流		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。 スーパーへの買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。 医師の往診あり。	事業所の協力医にほとんどが変更している。協力医は月に2回の往診があり、いつでも連絡が取れる関係にあるので家族の安心も大きく、看護師が常勤しているので円滑な連携が取れている。薬についてはセットと再確認、与薬と確認ときめ細やかなチェックを行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 往診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、適宜家族に確認。 家族と方針を共有している。	看取りについては簡単に受け止めることはできないので考えを重ね検討中としている。半年に1回急変時対応確認書で家族の気持ちを聴いている。毎月リスクマネジメントの勉強会の中で急変時の対応について確認合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習受講。(心肺蘇生法、AED) 全体会にて勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備。 定期的な防災訓練の実施。年に2回は隣接の特養と合同で、地域住民にも協力を依頼し、総合防災訓練を行っている。	年2回の防災訓練のほか、併設する特養と合同で開催する防火管理委員会に毎月参加して改善などに取り組んでいる。事業所独自の取り組みとして設備点検を含む防災訓練を毎月行い、結果報告書を上げている。また「防火対象物自主点検チェック票」で毎月チェックしている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。 スピーチロックの勉強会の実施。	個人情報取扱いについては家族の許可を得てからと決めているので、お便りに載せる写真についても同様に対応している。法人の研修に参加して接遇について学び、毎月目標を掲げて取り組んでいる。今後は職員同士が気づき、注意しあえる風土をさらに高めていきたいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 夜間帯にも入浴できるよう実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、ぬり絵、カラオケ、体操、習字など好きなものへ参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー、パーマの実施。 入浴時には、ご本人に洋服を選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の検品、切る→調理→配膳→片付けと、それぞれの入居者が得意とする部分に参加してもらっている。	朝、昼、夕食のメニューをホワイトボードに書き出して食事が楽しみに待てるように工夫している。食事の率直な感想を伝えてくれる利用者もいる。ちらし寿司など行事食に取り組んだり誕生日には皆でケーキ作りを楽しみ、おやつもおよそ週に1回のペースで手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、介護職員、看護職員が情報を共有し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレにて排泄してもらえるよう、職員2人にて介助を行っている。	「日中はトイレでの排泄をする」と「紙パンツの使用はなるべく避ける」ことでおむつからリハパン、リハパンから布パンツへと徐々に改善の傾向が見られる。訴えることが困難でも職員が連れていくことで排泄があり、布パンツで過ごすことで皮膚疾患も改善している。水分補給は1日1ℓを目標に摂取している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに牛乳や野菜を取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせ、夜間帯であっても入浴できるよう体制を整えている。	現在夜間に入りたいという希望はないが、昼夜問わず入りたい時に入浴してもらっている。湯は状況に合わせて2人入ったら替える等している。基本は1対1の介助で安全に配慮しながら取り組み、季節のしょうぶ湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。 また、夜間ぐっすり眠れるよう日中の活動量の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング実施。 また、会議において個々の薬についての勉強会の実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	社交ダンス、ケーキ作りなど、個々に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間の連携を密にし、利用者の希望に応じて外出してもらっている。市の広報紙から情報を得て、文化センターで行われる作品展等に出かけている。	今年は初めて家族会で吉田公園や静岡空港に出かけることができ、次回も桜の花見を心待ちにしている。地元の桜まつりに参加したり稲荷神社の祭りで子供のお舞を見たりと、人と人の触れ合いが豊かな場へ行くことが頻繁にある。気候のいい時は1日1回外に出ることが慣例となっている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の下、お金を持っている方もいる。食費より出費し、好きなおやつを買いこくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。年賀状の発送		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	非常口、トイレにカーテンを取り付けている。	大窓があり室内が明るく、また和風の間接照明が温かみを感じる。洗面台や廊下など至る箇所まで掃除が行き届き清潔感がある。キッチンの前にも和室スペースがあり、談話を楽しむことができる。夜間非常口に映る自分の姿を見て不穩になってしまう利用者もいるのでカーテンをつけて配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体がフローリングのため、居間に畳コーナーを設置し、入居者が足を伸ばして寛げる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒の持込や、家族の写真を飾ったりしている。	孫からの手紙や家族からののがき、折り紙で作ったプレゼント、習字の作品などを飾っている。またカレンダーや花、テレビ、時計、チェスト等を持ちこみ、生活しやすい環境作りをしている。シーツや布団は週に1回交換したり干して心地よく眠れるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・廊下等は車椅子やシルバーカー等を使用しても安全に使用できるような適切な広さを確保し、自立を促している。		